



中野区

DATA

【人口】 337,505人 (R5.12.1現在)
【面積】 15.59平方キロメートル
【職員数】 2,173人 (R5.4.1現在)

《発表のテーマ》

誰もが気軽に行ける、中野区オレンジカフェ

＜発表概要or今年の特徴＞

認知症の方が地域で暮らすには、色々な課題があります。認知症が原因で、地域の人とのつながりが希薄になることもそのひとつです。

今回の発表では、地域で、認知症の人やその家族の心を、豊かで温かな気持ちにする「Nカフェ（中野区オレンジカフェ）」という取組についてご紹介します。

みんなの温かな気持ち、これからの夢を一緒に共有しませんか？

＜改善運動の特色やアピールポイントなど＞





中野区では、平成16年度から業務改善運動を実施し、今年で20年目を迎えました。

「One Up↑チャレンジ」という名称には、「すべての職員が一つになって もうひとつ上をめざして改善に挑戦しよう」という意味が込められています。

＜メッセージ・意気込み＞

今年度は全庁で60の業務改善に取り組んでおり、今回はその中から、1月の庁内発表会にて大賞を受賞した事例を発表します。他自治体の参考になりましたら幸いです。



<p>部署名</p>	<p>地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課</p>
<p>タイトル</p>	<p>誰もが気軽に行ける、 中野区オレンジカフェ</p>
<p>改善前 【Before】</p>	<p>中野区では、認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の人など、誰もが気軽に参加できる“認知症カフェ”通称「オレンジカフェ」を実施していましたが、下記のような課題を抱えていた</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>課題</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1 参加者の固定化</p> <p>参加へのハードルが高く、参加者が固定化し増加しにくい</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2 認知症の人の孤立化</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大以降、人が集まる場に行きづらさを感じる人が多い</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>3 支援者の固定化</p> <p>オレンジカフェに関わる支援者が固定化してきている</p> </div> </div>

取組内容

官民連携を働きかけ、民間企業と協働で「Nカフェ」を新たにオープン



取組内容

世代を問わず、誰でも行きやすい「Nカフェ」での取組例



大学生による健康測定



スタバ店長によるコーヒー講座

効果 【After】

(改善の成果
・取組の効果)

抱えていた課題すべてを改善！



参加者の固定化 **改善！**

▶▶ 認知症支援事業への参加ハードルを下げることができた

「プライドの高い父でも誘いやすい」「高齢者ばかりでない雰囲気が良い」等の意見が聞かれた



高齢者の孤立化 **改善！**

▶▶ 外出の機会を提供し、孤立化を防ぐことができた

「今後もスターバックスに行きたい」「コーヒーを飲みに来た」と話してる人が多くいた



支援者の固定化 **改善！**

▶▶ 学生やカフェ店員にも参加してもらうことができた

「若い人とお話できて楽しかった」と喜んで帰られる方が多くいた